

【総合基礎科目領域/共通基礎科目群】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
生物・化学基礎		選択	1	1	前期
担当教員	研究室	電子メールID	オフィスアワー		
稲垣 昌博	教員控室	kango	授業終了後・Teams で対応		
授業の目的・概要	ヒトの生命活動を物質面から考えて、細胞レベルの構造、外部との物質交換、エネルギー産生などを理解するための化学的基礎を学び、生化学、生理学、病理学などを理解するための基礎的な知識とする。一部の内容は課題学習を通して理解を深める。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・デバート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	ヒト生命活動を理解するために、ヒトの生体成分の構成要素や生命活動の基礎となる原子、放射線、分子、イオン、溶液の濃度、浸透圧、酸と塩基、栄養素について、基本的なことを説明する。専門科目や臨床とのつながりを意識して学習して欲しい。				
教科書	解剖生理や生化学を学ぶ前の「楽しくわかる生物・化学・物理」 /著:岡田 隆夫 /羊土社/2017				
参考書	特になし				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	元素、原子と分子、電解質、イオンについて説明できる。		HSU(1)(2)		
②	生体を構成する物質、生体内で起こる化学反応について基本的なことを概説できる。		HSU(1)(2)		
③	分圧、浸透圧を説明できる。		HSU(1)(2)		
④	細胞の構成要素・成分について説明できる。		HSU(1)(2)		
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	生命現象と化学・生物・物理の関連。ヒトを構成する物質1: 元素、原子と分子、水、物質の濃度、pHとイオンについて学ぶ。	講義	課題①: 演習問題 (授業内容の確認)	3	
2	ヒトを構成する物質2: 物質の濃度、酸と塩基、pHについて学ぶ。	講義	課題②: 演習問題 (授業内容の確認)	3	
3	生体の構成要素: 糖質、脂質、タンパク質について学ぶ。 フィードバック①・②: 解答・解説の提示	講義	課題③: 演習問題 (授業内容の確認)	4	
4	身体内外の圧力: 大気圧、血圧、分圧、浸透圧、膠質浸透圧について学ぶ。	講義	課題④: 演習問題 (授業内容の確認)	4	
5	細胞: いろいろな細胞、細胞膜、核、細胞小器官、エネルギーについて学ぶ。	講義	課題⑤: 演習問題 (授業内容の確認)	4	
6	ヒトの生命活動: 活動のためのエネルギーについて学ぶ。 フィードバック③~⑤: 解答・解説の提示	講義	課題⑥: 演習問題 (授業内容の確認)	4	
7	ホメオスタシス1: ホメオスタシスの維持機構、体温、血圧、血糖値について学ぶ。 フィードバック⑥: 解答・解説の提示	講義	課題⑦: 演習問題 (授業内容の確認)	4	
8	ホメオスタシス2: 水と電解質、浸透圧、酸塩基平衡、について学ぶ。 フィードバック⑦・⑧: 解答・解説の提示	講義	⑧: 総括・感想	4	
試	筆記試験と試験問題の解説 達成度評価・評価のポイントを参照				

【総合基礎科目領域/共通基礎科目群】

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		80	20	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	50	10	0	0	0	60
	思考・推論・創造する力	30	10	0	0	0	40
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0	
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法及び注意点				フィードバックの方法	
試験	①	✓	授業の全範囲から出題する。解答は記述式を含み、解を得るための途中経過も評価する。			期末試験の解答と解説を配布する。	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
レポート	①	✓	各授業の終了約10分前に演習問題(レポート課題)を提示して、その授業終了時に提出のこと。総括評価に関連する課題は課題①~⑦の7回とする。			次回の授業開始時に解答・解説する。	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
備 考							
他担当教員	なし						
教員の実務経験	略歴: 昭和大学薬学部大学院薬学研究所卒 博士(医学)、薬剤師、臨床検査技師 現在: 昭和大学医学部医科薬理部門 客員教授						
実践的授業の内容							
その他	・苦手な領域でも、自分でイメージできるようトレーニングしましょう。そのイメージを自分の言葉で表現して、記憶に残るように頑張りましょう。 今回はすべて対面で授業を行う予定です。授業終了約10分前に演習問題(レポート課題)を提示して、その日の授業のまとめを行う予定です。						